

衛戍令下の韓国アナキズム運動

はじめに

Q 現在の韓国は、一九三〇年代のスペインのフランコ政権に優るとも劣らない朴正熙のファシスト政権が執権している国ですが、このような国にアナキズム運動があるのですか。

A あるといえばあるし、ないといえないといったような感じなのです。そのような表現しかできない事情を理解するためには、戦前の朝鮮人のアナキスト運動——それはたいてい民族独立運動という形態をとっていたのですが——それに戦後の（朝鮮では「解放後」のといいますが）アナキスト運動の混乱の事情がある程度理解していないと判らないでしょうね。

具体的にどういふことかと言うと、一つは政治運動、大衆運動の中に入り込んだアナキストの運動というのはありますが、それをアナキズム運動と呼ぶには無理があるように思います。そしてもう一つは、思想運動としてのアナキズム運動も去年あたりからようやく活発化しはじめたのですが、金子文子の墓碑を朴烈が生れた地に建てたことを除いてほとんどこれといった成果がないように私には思えました。このグループを「韓国自主人連盟」というのですが、今の韓国にアナキストの集団があ

るとすれば、この自主人連盟のみでしょうね。

Q 政治運動、大衆運動をアナキストがやっているということですが、それはどんな運動ですか。

A 政治運動というのは、梁一東、鄭華岩、河岐洛氏らの韓国民主統一党の運動で、大衆運動といったのは、李丁奎、李文昌、趁漢鷹、朴升漢氏らの国民文化研究所を中心とする農村自治運動のことです。

一応、現在の韓国に於けるアナキスト運動を考えるには、自主人連盟を加えてこの三つを考えていけば良いと思います。その他にも、李東淳氏のコミューン運動、李弘根氏の動き、崔海清氏の教育・文化運動などありますが、それらはどちらかというと個人的な動きで、もっともアナキストの動きは常に個人的ですが、私自身あまり詳しくは知らないもので、今日はそれらを除外して話をしていきます。ただ、そのような真にアナキスト的な、個人的な動きが個々見受けられるということを知っておいてほしいし、それについては別の機会にでも報告したいと思います。

尾関 弘

自主人連盟の活動

Q それでは、自主人連盟のことから聞きますが、いつごろ、どのような目的のもとに結成されたのですか。

A 私が韓国の同志に写しをもらってきた「韓国自主人連盟綱領」のさしざわりのない部分を紹介しますと、こういうものです。

韓国自主人連盟綱領

一、我等は各自、自己を主宰する自主人である。自主人の自由意志により連合した自由な社会を我等は建設しようとする。

一、すべての人間の主権は平等である。この権利はだれも侵害してはならない。我等は、治める者と治められる者ともに人間を区分する一切の政治的観念を否定する。

一、我等は如何なる手段に依ろうとも自らは働かず他人の労働の成果を横取りする行動を罪惡とみなす。

一、自主人の自由な社会では、「各人はその能力に従って働き、各人はその必要に応じて取る」という経済生活の原則が適用されるべきだ。

一、前各項の基本原則に従って、来るべき自由社会は各地域並びに職域の特殊性にしたがって各様な生活様式の可能性を開いているものである。

一、我等は各民族の歴史的に伝承した固有の文化を伝承すると同時に、諸民族の多彩な文化の調和による世界平和を志向する。

この後に、七カ条にわたる規約が続いています。が、ここまでは書かないでおきます。

連盟の運営は四人の複數委員制をとっており、その中で一人責任委員が決められています。その任期は一年です。

一部の例外を除いて、一応戦前からの韓国人アナキストのほとんどがこの自主人連盟に参加しているようです。だから、自主人連盟が、韓国に於けるアナキストのナショナル・フェデレーションの観がしなくはありません。それにしても、戦前からのアナキストたち——そのほとんどが五十才以上の高令者である——のサロンの雰囲気強く、若い人たちへの宣伝活動はこれからといったところです。アナキズム文献の出版活動や、若い人を集めての講演会などはやっていますが、あまりうまくいっているように見えませんでした。しかし、これしかないんですから、とにかく。毎週二回喫茶店に集まっている話合っていますよ。

Q それにしても、最初にも言ったように、戒厳令下の現在の韓国でこのような活動がよく可能ですね。

A だからこの自主人連盟は、非合法化の秘密結社ということです。出版活動は全て秘密出版の「手渡し」ということになりました。アナキスト連盟と呼ぶに、自主人連盟と呼んだり、またその綱領の内容も、かつての朝鮮のアナキズム運動の伝統からいっても考えられないくらい穏健なものになっています。

それに、朝鮮的な事情として、「反共」という点では、アナキストと朴正熙は一致しているんですね。過去のアナキストの独立に対して果たした功績や、「反共」をもっとも徹底して貫き通したという意味において、あちらさんの方も、むやみにアナキスト弾圧をできないという事情もあるのではないでしょう。それよりも、何よりも「自主人連盟」は残念ながらもまだまだ朴体制にとって、少しもゆううつな存在にはなっていない

ということなんじゃないですか。向こうの人も、「権力にとって痛くもかゆくもないというので、私等は泳がせられているんでしょね」と言っていました。

民族解放運動とアナキストの立場

Q 次に民主統一党のことを聞きたいんですが、梁一東氏というのは、金大中事件の時に金大中から致される直前に会っていたという人でしょう。

A そうです。

Q この人はアナキストなんですか。

A そうでしょうね、やはり。今は政治活動に活動の場を置いていても、彼のエートスはやはりアナキズムなんじゃないですか。彼の過去のアナキストとしての活動歴は有名です。戦前彼は東京へ留学してきて、朝鮮人労働者だけの東興労働組合を組織したり、朝鮮人アナキストの機関紙『黒色新聞』の編集、『自由連合』の編集などにたづさわっています。そして市ヶ谷の刑務所にも入っています。こんな彼のアナキストとしての歴史は韓国の民衆にもっともっと知られるべきでしょうね。

Q えっ！ よく判らないですね。梁一東氏は民主統一党の党主でしょう。そんな人が過去にアナキスト活動をしたとか、刑務所ぐらしの経験があるなどということが知られば、今の韓国の政治状況のなかでは、大変不利なんじゃないですか。野党攻撃のためのかっこうのネタを与党に与えることになりませんか。A いや、それは逆ですよ。むしろ、大いに宣伝しても良いと思います。何故なら、今の与党の中に、かつて死を賭けて日帝と

闘った経験をもつという人はいないし、与党化した新民党もブチブル民族資本家の集まりで、梁一東氏、それに鄭華岩氏らのようなスジガネ入りの独立運動家というのはいません。その違いが、今の民主統一党の性格をも決定していることで、それは多いに宣伝すべきだと思いますね。

Q それにしても、アナキストが政党にかかわるといのは、どういうことなんですか。

A これもまた韓国のアナキズム運動の特殊な事情を反映しているものです。もともと朝鮮のアナキズム運動は三・一運動後に作られた上海臨時政府の時代から、解放後の独立労働党、それに今度の民主統一党に到るまで、一方でずっと政治とかかわる姿勢をもっていました。他民族によって多年間支配と侵略を受けてきた朝鮮民族にとって、自分たちの「国家」を創ること、自分たちの「政府」をもつことは、アナキストばかりでなく、全国民の悲願なんですよね。だから、アナキストだからといって、この民族あげての悲願を無視してはいかなる大衆運動も成立し得ないということです。

それは今も変りません。まともな国家、まともな政府を作る運動、さらには真の独立を勝ち取る運動は、今も継続していると言って良いでしょう。その意味で民主統一党にかかわっている韓国のアナキストたちは、解放前の独立運動の時のそれと同じ意識で今もいるんじゃないでしょうか。

それともう一つ情理的な理由があります。というのは、良く知られているように、今の韓国の政治状況では、まともな反体制運動はまったく不可能です。このようななかで残されている

唯一の方途は、合法的に政党を作って、その中で執権政府批判をやっていくことです。韓国も一応、その内容はともかく、政党政治による議会主義をとる民主主義国家らしいですから、野党の存在を否定する一党独裁制はとれないでいます。だから、それを唯一の残された権力の間隙として活動の場にしていくというわけです。

Q では、民主統一党はアナキストの政党というわけですか。

A いや、そうじゃないんです。そもそも創党の過程からいって、新民党内の左派の人が、大統領選挙後、急速に与党化していった新民党に我慢できなくて飛び出し、広く各界の民主勢力に呼びかけて新党を結党したのが民主統一党ということになります。梁一東氏も新民党から飛び出した一人です。だから民主統一党は韓国の幅広い民主連合戦線の上に築かれた唯一の砦という感があります。最近の韓国政府の民主統一党に対する弾圧の事情を見れば、そのことが窺えると思います。

しかし、梁一東氏が党首で、その他に鄭華岩先生が最高顧問、河岐洛氏が政策審議委員長というように、党の五人の最高委員の三人までをアナキストが占めているという事実からして、党そのものはアナキストの組織ではないけど、アナキズム的な影響を受けているのはたしかでしょうね。

Q 金大中事件をはじめとして、学生運動・言論活動の弾圧等、朴政権はその独裁制をますます強めてきているように思いますが、そのような動きの中において、民主統一党は実際どれだけの影響力をもっているのでしょうか。

A とにかく今、国会に二議席しかもっていないんですよ。梁一

東氏、河岐洛氏をはじめとして、民主統一党はほとんどすべての選挙区に立候補者を出したにもかかわらず、例のめちゃくちゃの不正選挙でみんなそろって見事に落選したんです。当選した二人は、きつとむこうさんの方で、何か手違いがあったのでしょうか。

そのため、政党でありながら議会での活動と影響力はほとんどなくて、党活動のほとんどが院外の大衆運動に力が注がれているといって良いでしょう。こんなのも、アナキスト的でおもしろいじゃないですか。

「党婦人権委員会」といういかめしい名前がついてはいたが、やっていることはウーマンリブ的で、その委員長がアナキストの娘さんというのもおもしろかったです。

民主統一党がどれだけの社会的影響力をもっているかということについては、韓国政府の民主統一党に対する弾圧の様子を一つのバロメーターにすることができると思います。詳しいことはいろいろとさしさわりがあって言えませんが、弾圧の程度は加速度的に増していると言えましょう。

それと、私が梁一東氏に会った時に言われたことですが、今の韓国では、あの人たちはいわば「見ざる、聞かざる、言わざる」の状態で、韓国のそれもソウルで日々起こっているニュースすら、日本の新聞を通じてしか正しいことは知れない状態です。結論的に言って、韓国の同志たちは私達に期待しているのです。私達が知ること、書くこと、そして追い込むことに必死の期待を持っています。このことだけは心にとめておいて欲しいと思います。私も今から少しずつ始めたいと考えています。

コミュニティと農村自治運動

Q よく判りました。最後に、農村運動をしているアナキストたちの動きというのはどういうものですか、具体的に。

A 簡単に言ってしまうと、クロボトキン主義者たちということでしょう。韓国には「朝鮮のクロボトキン」と呼ばれた有名なアナキストの李乙奎という人がいますが、その人の実弟で李丁奎というこれまた有名なアナキストを中心とする運動です。解放後の李丁奎は成均館大学という儒教系の大学の総長をも努めた人で、李丁奎の思想性を被った教育関係者がこの運動に集っていますね。

韓国のゴットファーザーであったあの李承晩を倒したのは四・二六（一九六〇年）の学生革命であったことは良く知られている通りです。しかし、学生革命の成功の道はそんなに易しいものではありませんでした。その前に、四・一九の「血の火旺日」と呼ばれている弾圧事件があったりして、四・二二に有名な「教授団デモ」が行われました。李文昌さんの話では、李丁奎氏はこのデモの呼びかけ人の一人であったそうです。「自分たちが教えてきた学生が、今、目の前で殴られている時に教壇に立って何を教えるというのだ。学生の血に答えよ」というのが呼びかけのスローガンでした。この呼びかけに応じた多くの大学教授、高校・中学の教師などが集まり、「教授団デモ」となったりしています。

話が横道にそれてしまいましたが、要するにこの時集まった先生たち、学生たちの中に、「もう今更学校に帰っても教えることもないし、教わることもない。行動するときなのだ」とい

う気運が高まって、それが六〇年六一年の高揚期の後に、何を為すべきかという時、農村運動へと向かっていったのだそうです。それにはやはり、李丁奎氏のクロボトキン主義——自衛自治農村の連合社会という指標に基づく判断があったのではないのでしょうか。

私は話を聞いていて、これは韓国版ナロードニキ運動なのだなあと思いました。

Q コミュニオン運動とはちがうんですか。

A あなたがコミュニティ運動というのは、何を指して言われているのか知りませんが、日本にあるような共同体運動とは違います。農村に入っていた、というより自分の田舎に戻っていた元教師、元学生というのが、自分の田舎の小学校の先生になったり、農業をしたり、役場の職員になったりして「自治・自衛の社会」いわばクロボトキンの『田園・工場・仕事場』にあるようなコミュニティ村づくりを始めたということです。

Q 個々人がバラバラにやっているんですか。

A いや、そうじゃありません。ソウル市内にちゃんとした事務所を置いて、そこで横の連絡をとりながらやっています。どういう意味なのか、そこには「国民文化研究所」という看板がかけられています。

そこがいわばヘッド・クォーターで、そこが中心になって、「全国農村活動者会議」という組織を持っています。これがこの運動の主体なんですよ。

Q 具体的にどんな活動をやっているのですか。

A 資料不足や言葉の問題があって、まだまだ細かいことは知ら

ないんですが、例えばものすごく具体的な話でいえば、種イモを一カ所で作ってこの組織を通じて全国で売ろうとか。農業だけで自立できない村に授産運動を起して軽工業・手工業、あるいは七宝焼などの副業を合わせてやっていこうとかの運動です。Q まだよく判らないですね。

A 私も農村を回ったわけでもないし、ちょっと話を聞いただけではほとんど判らないんですが、私が今島根県でやっている共同体運動の四つの闘争方針八一、農村のコミュニケーション化 二、目前の流通機構の確立 三、都市の消費者の反公害闘争 四、コミュニケーション学校（教育機関）Vを説明したら、大変喜んでもらって、自分たちの運動もまさにこのような運動をしているのだと言っていましたよ。実際、公害闘争とか、資本主義流通機構との対決ということとはよく聞きました。

Q それで実際に、クロボトキンの夢みたような社会は韓国のごとくにできているのでしょうか。

A さっきも言ったように、現地調査していないので判りませんが、いくつかおもしろそうところもありそうです。

しかし、この運動もこれからでしょうね。とにかく、十年近く続いてきたんだし、これから真価が問われるというところですか。先に何か可能性は確かにあるようです。若い大学生やOしやいろんな人が、朝から夜の十時ごろまで事務所にひっきりなしに出入りしていますから。私が韓国へアナキストの人たちと会いに行ったなかで、若い人が大勢集まって生々としていたのは、ここだけでしたからね。それできつと印象が強いのです。少し点数が甘すぎるかもしれませんがね。

Q 李丁奎氏がアナキストで、運動がアナキスト社会を目指したナロードニキ的なものであるというのも判りましたが、そこに集まっている若い人たちはどうなんですか。

A アナキストと呼べる人は少ないでしょうね。それも運動を通じて、李丁奎氏と交わる中でアナキスト的なものの考え方を知らず知らずのうちに身につけているという程度でしょうか。それで、自主人連盟なんか、そこで「アナキズム講演会」などを開いたりして、自覚的なアナキストにしようと「アナキズムとは何か」という宣伝活動を若い人に向かってやっています。

まだまだ韓国のアナキズム運動について、考えねばならないことはありますが、それは少しずつ考察していくことにして、今回はとにかくこの程度にしておきましょう。また本紙の読者の方で、何か御質問があれば本誌編集部に送って頂くことにして、必要な次号でそれに答えるような形で、この終りのない原稿のへ統Vしたいと思います。

四月二七日 弥栄にて

◇ ◇ ◇
本誌では、朝鮮人のアナキズム運動をテーマとして、以降さまざまな企画をもって取り組んでいく予定です。金宗鎮伝の他、宋世何氏の回想記、運動史年表（朝鮮・日本・中国の各地における）、さらには朝鮮人のアナキズム運動を理解するうえに欠かせない諸資料の紹介を続けます。

またこの面での編集協力者を求めています。